

図書館へ行こう

本は、市内の図書館・図書室でも貸出・返却できます。

おすすめの
新刊

『文豪が泊まった温泉宿50 “裸” になって本音をみせた』

著／週刊朝日編集部
出版社／朝日新聞出版
若き国木田独歩が恋人と逃避行した塩原温泉の「上会津屋」、川端康成が10年間ツケ払いで暮らした伊豆の「湯本屋」。その他にも芥川龍之介、太宰治、森鷗外などの文豪が宿泊した温泉宿を、当時のエピソードとともに紹介しています。温泉ガイドとしても楽しむことができます。



『ニッポンお宝食材 風土が作り、人が育てる 郷土のお取り寄せ帖』

文／向笠 千恵子
写真／荒井 孝治
出版社／小学館
沖縄の今帰仁(ナキジン)アグー、京都のしば漬、岐阜の粉山椒。徹底取材したニッポンが誇るお宝食材58品目と、その素材を最大限に利用した現地の郷土料理店、取扱店を紹介した本です。



『せき越えぬ』

著／西條 奈加
出版社／新潮社
思わぬゆきから箱根の関守となった若き小田原藩士・武一。彼の前には切実な事情を抱えた旅人がやってきます。西国へ帰る訳ありげな兄妹、江戸から夜逃げしてきた臨月の女。やがて命を懸けて一人の男にこの国の未来を託そうとする者たちを、武一の身にも人生最大の岐路が訪れます。



『ノラネコぐんだん カレーライス』

著／工藤 ノリコ
出版社／白泉社
ワンワンちゃんのカレー屋さんをのぞくノラネコぐんだん。カレーライスの作り方を見ている。夜、ノラネコぐんだんはお店に忍び込んでシーフードカレーを作り、「かんたんだったね かんたんだったよ」と得意顔。でも、ノラネコぐんだんの背後には…。



『ふゆとみずのまほう こおり』

写真・文／片平 孝
出版社／ポプラ社
冬の寒さが、水の魔法をかけ、氷になりました。池や湖には氷、モザイク模様の氷の結晶、水辺の木に波しぶきが凍りついた「しぶき氷」氷が見せる多様な姿・形と不思議な性質を、美しい写真とともに紹介した1冊です。



『おれ、よびだしになる』

文／中川 ひろたか
絵／石川 えりこ
小さいころから相撲が好きだったぼくは、中学を卒業すると「よびだし」になった。よびあげ、太鼓、土俵づくりなどを先輩に教えてもらい、やがて僕の初土俵の日がやってきた。大相撲の世界に飛び込んだ少年のお話です。



各図書館・図書室連絡先

平戸図書館	☎22-4017
永田記念図書館	☎22-9182
南部公民館図書室	☎22-9191
生月図書室	☎22-9202
田平町中央公民館図書室	☎22-9211
大島村公民館図書室	☎55-2511

図書館ホームページ

http://www.hirado-lib.jp
携帯電話からQRコードを読み込んで簡単にアクセスできます。



図書館のイベント情報

会場	主なイベント	開催時間
平戸図書館	おはなし会 (おはなしのへや)	9日(日)・16日(日)・23日(日)午後2時～
	赤ちゃんおはなし会 (おはなしのへや)	12日(水)・26日(水) 午前10時30分～
	「みんなdeシネマ」(COLAS平戸ホール) 『旅立ちの島唄』(邦画:114分)	8日(土)・27日(木) 午後2時～
	ライブラリーコンサート 大正琴のグループ「琴樹会ハイカラバンド」の皆さんです(予定)	29日(土) 午後7時～
永田記念図書館	おはなし会	毎週土曜 午後2時～

今月の休館日 平戸図書館：(蔵書点検)1日(土)～5日(水)
永田記念図書館：4日(火)、(蔵書点検)10日(月)～14日(金)、18日(火)、23日(日)、25日(火)

各地域の食生活改善推進員が紹介します！ 35

今月のレシピ

健康ほけん課健康づくり班 ☎22-9125

『大豆のサラダ』

【材料(4人分)】

大豆(水煮).....100g	ちりめん.....10g
しめじ.....100g	マヨネーズ.....大さじ2
人参.....40g	濃口しょうゆ.....小さじ2
レタス.....60g	練りわさび.....小さじ1/4
きゅうり.....60g	

【作り方】

- 1 しめじは小房に分けて茹でる。人参は短冊切りにし茹でる。レタスは食べやすい大きさにちぎる。きゅうりは小口切りにする。ちりめんは熱湯をかける。
- 2 Aの調味料を合わせる。
- 3 全ての材料とAを和える。

【栄養(1人分)】

エネルギー 82kcal たんぱく質 5.1g 脂質 6.4g 食塩相当量 0.8g



野菜を1品プラス

野菜・キノコ類に多く含まれる食物繊維は、コレステロールの吸収や血糖値の上昇を緩やかにする働きがあります。大豆に加え、ちりめんの旨味と練りわさびを効かせることで減塩で栄養たっぷりのサラダに仕上げました。



南部地区 えぶろん会
もりやま
森山 アツ子さん

毎月19日は「食育の日」です！

「古写真」から見る平戸の記憶遺産 vol.11

文化交流課文化遺産班 ☎22-9143

「猶興館高校」

猶興館高校は、1880年(明治13年)松浦家当主松浦詮によって「私立猶興書院」が開設されたのがはじまりです。当時の猶興書院は現在でいう私塾に相当し、旧平戸藩内の勉学を志す若者たちの学びの場であり、現在の猶興館グラウンドに校舎がありました。その後、1887年(明治20年)当時の学制に則り「私立尋常中学猶興館」となり、翌年文部省の認可を受け、1901年(明治34年)長崎県に移管され「長崎県中学猶興館」となります。現在の県立高等学校の前身です。

県立中学猶興館は1916年(大正2年)に校舎を建設。その校舎は洋風の非常にモダンな建築でした(写真右上)。残念ながらこの校舎は1924年(大正13年)に焼失。その後、1927年(昭和2年)現在の地に新校舎が完成し(写真右下)今にいたります。今年は猶興館が創立されて140年の記念の年にあたります。



1916年ごろの旧校舎



1927年ごろの新校舎